

令和6年度 第1回甲府市多文化共生推進委員会会議録

- 1 開催日時 令和6年7月1日（月）午前10時～午前11時
- 2 開催場所 本庁舎7階 会議室7-1
- 3 出席者 委員7名
秋田辰巳委員長、萩原孝恵委員、池田充裕委員、
花田智委員、畑晴夫委員、高岸貢委員、徐芸委員
- 4 欠席者 伊藤孝恵委員、三井さや花委員、内藤裕利委員、
赤池ミッシェリ委員
- 5 議 事 (1) 委員長の選出
(2) 甲府市の現状について
(3) 令和5年度多文化共生推進事業実績及び
令和6年度多文化共生推進事業実施計画について
(4) その他
- 6 議事進行
【秋田委員長】
令和5年度多文化共生推進事業実績及び令和6年度多文化共生推進事業
実施計画について事務局より説明をお願いします。

【事務局】
では、議事（3）令和5年度多文化共生推進事業実績及び令和6年度多文化
共生推進事業実施計画について、ご説明申し上げます。
はじめに、資料2の「甲府市多文化共生推進計画2021」をご覧ください。
資料の9ページに、この計画は、基本目標1「安全で安心して暮らせるまちの
実現」から基本目標4「外国人材の活躍と持続可能な社会の実現」までかけ、
それぞれ基本計画として、1-1「医療・保健・福祉サービスの提供」から、4-
3「留学生の地域における就職促進」までの取り組みを推進することとし、そ
れぞれに具体的な事業を掲載しております。
続きまして、資料4をご覧ください。この資料につきましては、令和5年度、
庁内で行っている多文化共生に係る事業について、多文化共生推進計画の
基本施策ごとに一覧としてまとめたものです。
色が付いている部分をご覧ください。こちらは、事業ごとに令和6年3月末時点

の実績を記載しております。評価につきましては、最終ページに記載がありますが、Sは前年実績を上回り、かつ新しい事業を行ったもの、Aは前年実績を上回ったもの、Bは前年実績と同等のもの、Cは前年実績を下回ったものとしており、令和6年度事業の方向性については、継続、拡大、縮小、終了となっております。

なお、時間の関係上、特徴的なものを事業ごとに簡単に説明させていただきたいと思います。

それでは、資料4の2ページ目をご覧ください。基本施策「1-1 医療・保健・福祉サービスの提供」につきましては、事業番号3の「国民健康保険等の情報提供」の一番下の「〇健診自体を知らない外国人が多く、健診を受診しない（できない）状況となっていることから、案内チラシの作成及び配布を検討するとともに、やさしい日本語会話・異文化体験サロンなどの機会を利用して直接外国人へのPRを行う、につきましては、前年度と同様に4月の特定健診受診券発送時に3か国語（英・中・韓）対応の受診案内チラシを同封するとともに、県及び市が主催の外国人住民のための「防災教室」の実施会場で3か国語（英・中・韓）のチラシ約300部を配布して受診勧奨を行いました。このことから、昨年と同等の実績であったということで「B」という評価になっております。

次に、その下の事業番号4「〇介護保険制度の周知」については、多言語による介護保険の仕組みについての説明書を同封した件数は少し減っているものの、外国人対象者にすべて送付していることや、窓口にて制度の周知ができたことから「A」となっております。

続きまして、「1-2 災害・防災への支援整備」につきましてはですが、事業番号1「外国人市民に関する防災・防犯対策の推進」、資料の3ページ目、下から2番目「〇わが家の防災マニュアル」については、ユニタス日本語学校で行われた「外国人居住者のための防災教室」において、合計300部配布したことや、「わが家の防災マニュアル（外国語版）」を作製し、ホームページ等に掲載するなど、周知を行い、昨年を上回る実績ということで「A」とさせていただきました。

次に資料4ページ一番下の「〇感染症に関する多言語の情報提供」については、前年度同様に、甲府市ホームページの翻訳機能を活用することで、多言語による情報発信を行い、最新の情報をホームページへ掲載するよう努めたこと

から「A」という評価^{ひょうか}になっております。

次に「1-3 情報^{じょうほう}の多言語化^{たげんごか}と相談体制^{そうだんたいせい}」につきましては、事業番号1「生活^{じぎょうばんごう}関連情報^{せいかつ}の提供^{ていきょう}」におきまして、7言語対応^{げんごたいおう}の生活ガイドブック^{せいかつがいでぶっく}の冊子^{さつし}と、QRコード^{こーど}付き多言語版^{たげんごばん}チラシ^{ちらし}を外国人相談窓口^{がいこくじんそうだんまどぐち}へ設置^{せっち}するとともに、ホームページ^{ほむぺーじ}にも掲載^{けいさい}しました。また、転入手続^{てんにゆうてつづき}の際^{さい}にも、生活ガイドブック^{せいかつがいでぶっく}や多言語QRコード付き^{たげんごこーどつき}のゴミ^{ごみ}の出し方^{だしかた}、自治会加入^{じちかいかにゆう}のお願い^{ねが}チラシ^{ちらし}を配布^{はいふ}し、積極的に情報提供^{せっきょくてきじょうほうていきょう}に努めた^{つと}ことから「A」とさせていただきました。

次にその下^{つぎした}、事業番号2「多言語^{じぎょうばんごう}による行政情報^{たげんごぎょうせいじょうほう}の提供^{ていきょう}」につきましては、
「甲府暮らしの便利帖^{こうふくらしべんりちよう}」の発行^{はっこう}や、ホームページ^{ほむぺーじ}リニューアル^{にゅーある}において、昨年^{さくねん}同様に多言語対応^{どうようたげんごたいおう}をした^しということで、「B」となっております。

さらにその下^{した}、事業番号3「日常生活^{じぎょうばんごうにちじょうせいかつ}における相談窓口^{そうだんまどぐち}の設置^{せっち}」につきましては、外国人相談窓口^{がいこくじんそうだんまどぐち}の設置^{せっち}を継続^{けいぞく}し、就学相談^{しゅうがくそうだん}で学校教育課^{がっこうきょういくか}と連携^{れんけい}し、不就学^{ふしゅうがく}児童等^{じどうなど}を生^{しょう}じない^{はか}ように図^{はか}ったことから、実績^{じっせき}が上回^{うわまわ}ったとして「A」とさせていただきます。

つづきまして、基本目標^{きほんもくひょう}2^{せつめい}をご説明^{しりょう}させていただきます。資料^{しりょう}の7ページ^{ぺーじ}をご覧ください。

「2-1 多文化共生^{たぶんかきょうせい}に向けた意識啓発^{いしきけいはつ}・醸成^{じょうせい}」の事業番号1「外国人市民^{がいこくじんしみん}の地域社会^{ちいきしゃかい}への参画促進^{さんかくそくしん}」から事業番号3「地域住民等^{じぎょうばんごうちいきじゅうみんとう}に対する多文化共生^{たいたぶんかきょうせい}の意識啓発^{いしきけいはつ}」につきましては、昨年同様^{さくねんどうよう}の実績^{じっせき}としてすべて「B」となっております。

次に資料^{しりょう}の9ページ^{ぺーじ}、10ページ^{ぺーじ}にあります「2-2 日本語^{にほんご}の学習支援^{がくしゅうしえん}と充実^{じゅうじつ}」の事業番号6「日本語^{にほんご}の学習機会^{がくしゅうきかい}と情報提供^{じょうほうていきょう}」につきましては、「日本語教室^{にほんごきょうしつ}、やさしい日本語サロン^{にほんごさろん}、異文化サロン^{いぶんかさろん}」の開催^{かいさい}や、図書館^{としょかん}に関連図書^{かんれんとしょ}の購入^{こうにゅう}・はいかなどを前年^{ぜんねん}より積極的に開催^{せっきょくてき}したことから、「A」の評価^{ひょうか}となっております。

つづきまして、基本目標^{きほんもくひょう}3^{せつめい}につきまして、ご説明^{しりょう}します。資料^{しりょう}の10ページ^{ぺーじ}、11ページ^{ぺーじ}をご覧ください。

「3-1 地域社会^{ちいきしゃかい}のグローバル化^{ぐろーばるか}の推進^{すいしん}」になりますが、事業番号1「公共施設^{じぎょうばんごうこうきょう}・生活関連施設^{せいかつかんれんしせつ}の多言語化促進^{たげんごかそくしん}」から事業番号3「無料公衆無線LAN^{じぎょうばんごうむりようこうしゅうむせん}」
環境^{かんきよう}の保守管理業務^{ほしゅかんりぎょうむ}」につきましては、昨年同様^{さくねんどうよう}の実績^{じっせき}としてすべて「B」と

なっております。

資料の13ページ「3-2 多文化交流の推進」の「6 国際交流員の活用」につきましては、国際交流課に配属されているフランス国籍の国際交流員によるフランス文化講座を、市内幼稚園・大学・団体等で開催し、前年度より多くの、幅広い年代の参加者に対し、異文化や外国語体験を実施することで、市民の国際感覚の醸成を図ったことから「A」評価となっております。

つきまして、資料13ページ、基本目標4につきましてご説明させていただきます。

「4-1 の外国人集住地域等との連携」につきましては、昨年12月に新田地区におきまして、地域保健課と協力し、健康相談会・外国人相談窓口を開設し、参加者18名、チラシ30部を配布し、多文化共生活動や、やさしい日本語会話・異文化体験サロン等の広報活動を行い、評価を「A」としました。また、この事業につきましては、高岸委員にご協力いただき、感謝申し上げます。

次に「4-2 人材育成と労働環境の確保」の事業番号1「関係機関との連携による就業支援」についてですが、具体的にはワークプラザ甲府を活用し就職につなげたいというものです。ワークプラザ甲府とは市役所の2階にある「ハローワーク甲府」の出張所で、雇用保険とか助成金などの手続きはできませんが、職業相談や紹介等、就職につながる業務を行うことができます。こちらの事業につきましては、昨年よりも実績が上回ったことで、「A」となっております。

次に資料の最終ページ「4-3 留学生の地域における就職促進」の事業番号2「留学生に対する生活等に関する支援」についてですが、こちらは、ふるさと納税を利用し、市内4大学の国際交流に関する事業を対象に補助金を交付する事業です。市内4大学のうちのふるさと納税で寄附のあった2大学に対する支援ではありますが、金額として300万円を超える支援でありますので、「A」とさせていただきます。

ここまでが、令和5年度多文化共生推進事業実績の説明となります。なお、令和6年度多文化共生推進事業実施計画につきましては、すべての事業で継続となっております。各担当課において、引き続き事業を継続し、多文化共生を推進していく計画となっております。以上で、議事（3）についての説明を終わります。

あきたいいんちよう
【秋田委員長】

ありがとうございました。ただいまの事務局からの説明について、委員の皆様からご質問・ご意見ありましたらお願いいたします。

はなだいいん
【花田委員】

今、外国の方が増えている中で、日本語が喋れない方にも基本的なサービスを最低限受けられるような環境に是非してあげてもらいたいなと思います。今ご報告いただいた中で例えば、医療機関における対応や防災など、生活するうえで一番大事な部分がB評価になっているので、是非こういう部分を注力していただきたいです。災害があったときの避難に関する情報が最低限必要なのかなと思います。それを注力するためにもW i - F i を充実させることで、より外国の方に過ごしやすい環境になるのかなと思います。日本の中でも地域の方と外国の方とでトラブルが起きているような地域もあるようですが、やはり「分からない」ということが一番問題あるかと思いますので、そういう方に基本的な生活のための情報を知ってもらえるよう、メリハリを付け、優先順位を付けながらやってもらえると、過ごしやすい都市になるのかなと感じました。以上です。

あきたいいんちよう
【秋田委員長】

ありがとうございます。今おっしゃられたとおり医療や防災、命に係わりところが重要であり、そこがA評価になるように頑張っていたきたいということですね。あとは分からないと、何でもそうですが不安になり、それがそのまま怒りになるとか他人にぶつける原因になるかと思いますので「分からない」を減らすという活動が必要なのかなと思います。ありがとうございました。他の方はいかがでしょうか。

はたいいん
【畑委員】

私どもは自治体連合会ですから、自分たちの自治会にも留学生や働いている人がいるわけですが、留学生に限らず大学生全般に言えることだと思いますが、もう少し地域の中に入って第二の故郷的な感覚で、一回ここから離れてもまた戻って来られ、知り合いもいて、いつ戻ってきても楽しく過ごせるよう

な形を取れば一番いいなと思っています。そのためにはボランティア等をもっと積極的にしていただき、こちらも受け入れることで、もう少し色々な人とのコミュニケーションができ、日本に来て良かったと思ってもらえるような楽しい生活を送ってもらいたいです。

【秋田委員長】

ありがとうございます。今おっしゃられたように、留学生に限らないと思いますが、その線を引くということが多文化共生のあまりよくない部分かと思いますが、繋げて考えることが大事だと考えます。卒業した後も戻ってくるといって、山梨学院大学でも時々留学生が戻って来ます。特に留学中にお世話になったセンターのスタッフに顔を出しに来たりします。そのためには在学中にボランティア活動等を色々ご参加いただければ地域に親近感が持てるのではないかと思います。

【畑委員】

それともう一つ、徐さんのお名前ですが、私の知識では徐さんというのは日本語の発音を当てはめた名前だと思っていますが、できればこういうところでは、発音が難しいとは思いますが、中国語の発音で出していただいた方がいいのではないかと思います。日本語の発音で書いてしまうこと自体が遅れているのかなという風に思います。中国の人は、中国の名前もあればイングリッシュネームを持っている方もいるかと思いますが、こういった点について、徐さんお話し伺えますか。

【徐委員】

はい。おっしゃるとおりで本来でしたら元々の発音で呼ばれたら一番親しみやすいなと思いますが、ただ中国語の発音はすごく難しく、優しい発音の日本語を話す日本人にとってとても苦勞だと思いますので、皆さん読みやすいように日本語の読み方でも構いません。私の名前「徐」は中国語の発音にすると「Xú（シュウ）」になりますが、読みづらくなかなかできない方もいらっしゃるかと思いますので難しいですね。申告するときにカタカナでフリガナを書くときに、個人個人の自由で選べるような形にすればいいなとは思っています。すごいいい意見ありがとうございます。

そして自分の意見を述べますと、資料を拝見して今までより分かりやすくまとめられていて、国際交流課に移管されて進歩しているなど実感しています。ありがとうございます。

あきたいいんちよう
【秋田委員長】

ありがとうございます。お名前につきまして今お話があったように、かなり前から韓国の大統領などの名前に関して昔は日本語の発音でしたが今は本国の発音に変わりました。本来の発音で呼ぶのが第一かなと思いますが、なかなか中国語の発音も難しいですね。アメリカの奥地に行きますと、喉の奥で喋るような地域もございますが、なるべくその地域の発音に近づけるこちら側の努力や歩み寄りも必要かと思えます。また、在留カードなどアルファベットで書いてあると比較的に読みやすかったりします。大学でも留学生についてはアルファベットの名前をどこの国から来た学生についても打ち込んだりしておりますが、ただ英語は共通語ではあるものの全員の方にとって分かりやすい表記かということとそういう訳でもないのがこれは甲府市に限らず恐らく世界的な課題であると思えます。外国の方のお名前をどういった発音で呼ぶのか、極力母語に近づけるというのもひとつの方法かなと感じました。ありがとうございました。

じむきょく はぎはら
【事務局・萩原】

委員長よろしいでしょうか。色々ご意見をいただきありがとうございます。今畑委員からおっしゃっていただきました外国の方の名前の表記のお話ですが、気が利かなかった部分があり失礼いたしました。確かにとおっしゃるとおりそういう認識を持って、まずこの委員会からという思いもございましてこのようなご意見を次回以降の改善に繋げていければと思います。資料に関しましてはお褒めの言葉をいただきありがとうございます。私どもは4月から新たに担当させていただいておりますが、試行錯誤しながら皆様に分かりやすく伝え、ご意見をいただけるようにと思っておりますので、些細なことでもこの場でご意見いただければ幸いです。畑委員から留学生のお話も出ましたが、地域の中に留学生が入って行って、人手不足が続く自治会にとっても留学生にとってもWin-Winな関係を築けるような環境を作れたらと考えます。言葉にするとは簡単ではございますが、いかにして実践をしていくかというのが課題だ

とおもっておりますので、みなさま方より是非ご意見を頂戴しながら多文化共生推進事業を進めていきたいと考えておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

【高岸委員】

貢川団地の状況として外国人人口は男性73、女性98という形になっております。貢川団地には第一、第二、第三、第四自治会がありますが、分布を各自自治会で分けて数字を出すことができるのでしょうか。県の管轄なので難しいかと思いますが...

【事務局・井出】

自治会については協働支援課が担当になりますが、担当課と話をすることで今後その数字が分けられるようであれば検討させていただきます。

【高岸委員】

検討してください。貢川団地は高齢者が多い団地ですが、いずれ活動としては外国人の方も多いので「青空市」とか「健康相談」などのイベントに力を入れていきたいと考えています。今月27日にも納涼のふれあい祭りを計画しておりまして、そこにもかなりの外国人の方が来られます。これまでに、中国の方たちが中国語の民謡を披露していただいたりしました。今年もそのような中国の方とも親睦を深められるよう計画しております。

【秋田委員長】

「日本人が提供する」ではなく次のステップ「外国の方が主体の一部を担う」という雰囲気伝わってきます。そのように順番に私たちがサービスを提供する段階から次の段階に早く全体的に進み、一緒に企画をするなどして交流や相互理解に繋がる気がします。ありがとうございました。

その他ご意見ありますでしょうか。

【萩原委員】

最初の頃にやさしい日本語への対応がなかなか進まないという状況がありましたけれども、だいぶ進んで本当に素晴らしいという風に思っております。

そんな中で今後いくつかご検討いただきたい点があります。まずごみの出し方です。多言語化という言葉聞いたときに「他の言語に訳す」ということがまず浮かぶと思いますが、「～出します」とか「これは缶です」とか、ぜひやさしい日本語を使っていたきたいです。全部の言語に翻訳が対応できるわけではないので、映像などの視覚的な訴えとやさしい日本語を駆使するとよいかと思えます。ごみの出し方は文化が違ふとかなり戸惑うところがあり、他の住民からすると色々混ざっていたりすると摩擦の原因になったりするのでやさしい日本語での対応をご検討いただきたいと思います。その他同様にやさしい日本語がまだ未対応なところは保険料や納付相談があります。最も気になったのは、納付相談に関してで、英語圏の人には英語で対応し、それ以外の人たちには一旦職員が英語に翻訳してその後もう一度オンライン翻訳を利用したとのことですがこれは「たぶん翻訳」になり、かなりの意味のズレやギャップが生じるのかなと思います。このあたりもやさしい日本語をご対応いただけたら、もう少しズレが無くなってくるのかなと思っております。やさしい日本語に注視させていただきますが、他にも例えば学習支援のところで、多言語化での対応が優先されてやさしい日本語での対応は考えられてないようなのでこちらも学んだりとかご対応いただきたいです。それともう一つ、観光の部分ですが、観光情報の発信は全員の言語で対応できるわけではないので、意外と日本に観光に来る方は日本語をちょっと話してみたい、あいさつをしてみたい、「なににはどこですか」など日本語でちょっと聞いてみたいという思いがある方も多いので、そこにいるスタッフの方も優しい日本語での対応を取り入れていただけたらと思います。やさしい日本語できますという方も沢山いらっしゃると思いますが、私個人としては非常に難しいと感じております。意識するだけでも変わるのでこちらの点もご検討いただけたらと思います。ですが本当に素晴らしいやさしい日本語への対応が進んだなあという風に思っております。以上です。

【秋田委員長】

ありがとうございます。今キーワードとして「やさしい日本語」が出ました。おそらく一つの目安として「日本語能力検定試験」があります。その一番簡単なレベルの表現を参考にするのが一つの方法かなと思います。私たちがやさしいと思っても実はそうでなかったりすることもありますし、難しいのに

外国人の方がご存じの表現もあります。私も逆に英語の表現を学生たちに提示するときに、単語を打ち込むと英検2級レベル、準1級レベルに変換してくれるネットのサイトを利用して参考にしたりすることもあります。そのように検定の級を参考にするとやさしさのレベルが客観的に分かる気がします。また日本にいらっしゃる方で、日本語を話してみたいという可能性も確かにありますね。私たちも外国に行くときに日本語で押し通そうなんて絶対に思いませんよね。ですので、一概に全ての言語に対応できるようにするのも一つの案ですけれども、その一方で日本語を普及していくのも一つの面白い交流のステップかなという気がします。ありがとうございました。

その他ご意見ありますでしょうか。

【池田委員】

私は大学で教職課程を担当しておりまして、毎年、将来教員免許を取って教員になりたい2年生を50名ほど教育ボランティアという形で学校に送り出していますが、外国籍のお子さんへの支援に関心のある学生は中央市に行くことが多いのですが、甲府市内ですとやはり池田小学校さん、大里小学校さんに希望して行く学生が多くなっています。これは教育委員会と連携しているのですが、最近教育委員会からお電話があり、「ベトナム語ができる学生はいないですか」というお話がありまして、やはりベトナムのお子様への対応が甲府市今大変なんだなと感じていました。今日の資料を見ましても本当にベトナムの方の増え方が著しくて学習支援に関しましてもベトナム語対応が近々の課題なんだろうと思っています。このあたりは市の方ではどのように対応されてくのか少しお聞きしたいなと思います。学院大学さんがベトナムフェスタを開かれたのは流石だな、時期を捉えているなと思いました。ベトナムのお子様、市民の方への対応についてどのようになっていますでしょうか。

【事務局・井出】

それぞれの担当課において、多言語化していくというのは当然のことで、どの言語を取り入れていくのか各課ともに検討しているところであります。実際にベトナム国籍の方が増えてきているということは市役所の組織としては認識をしている中で、今後どのように対応していくか協議しております。本日はた

いたご意見^{いけん}をまた担当課^{たんとうか}に落と^おさせていただいて次回^{じかい}の第二回委員会^{だいにかい いんかい}で今後^{こんご}どのようにしていくかまたご説明^{せつめい}できればと考^{かんが}えております。

【池田委員】

よろしくお願^{ねが}いいたします。

【秋田委員長】

ありがとうございました。

教育^{きょういく}の現場^{げんば}のお話^{はなし}がで^でました。実はうちの大学^{だいがく}でもベトナム国籍^{ベトナムこくせき}の職員^{しよくいん}が一人^{ひとり}おりまして、その人^{ひと}はうちの大学^{だいがく}の卒業生^{そつぎょうせい}です。私^{わたし}のクラス^{くらす}にもいた子^こです。また、2030年^{ねん}までに教職員^{きょうしよくいん}の30%^{がいこくじん}を外国人^{じゆぎょう}に、授業^{がいくごたいおう}の30%^{がくせい}を外国語対応^{りゅうがくせい}に、学生^{がくせい}の30%^{りゅうがくせい}を留学生^{たっせい}にしようという「2030プラン」^{ふらん}があります。現在^{げんざい}留学生^{りゅうがくせい}についてはほぼほぼ達成^{たっせい}はしていますが、教職員^{きょうしよくいん}につきましてもなるべく多言語化^{たげんごか}ということでやらせていただいております。中国語^{ちゅうごくご}についてはいろいろなま^{なま}訛り^{ちゅうごくおうち}がございますので、中国奥地^{しゅうしん}の出身^{すたっふ}のスタッフもおります。同じ「中国^{おな}」といっても広い^{ひろ}です。

【徐委員】

素晴らしいですね。

【秋田委員】

フィリピン^{ふいりびん}は英語^{えいご}、ブラジル^{ぶらじる}はポルトガル語^{ぼるとがるご}で南米^{なんべい}で唯一^{ゆい}スペイン語^{すぺいんご}でない国^{くに}、ペルー^{ぺるー}はスペイン語^{すぺいんご}、ネパール^{ねばる}はお店^{みせ}とかでは英語^{えいご}で通^きじた記憶^{きおく}があります。皆様^{みなさま}がおっしゃるとおり、多言語化^{たげんごか}といいますがまずは英語^{えいご}から入^{はい}っていくかとは思^{おも}うのですが、英語^{えいご}も様々^{さまざま}で訛り^{なま}もたくさんござい^{はなし}ます。先日^{せんじつ}、知人^{ちじん}と話^{はなし}をしている中^{なか}で、「英語^{えいご}を身^みに付^つけるにはモデル^{もでる}はイギリス人^{いぎりすじん}・アメリカ人^{あめりかじん}なのだろうけれども、それを使う練習^{つか れんしゅう}は色んな国^{いろ くに}の人^{ひと}とやっ^{ほう}た方がいいのではないか」という話題^{わだい}がで^でました。

いずれにしても、こういった資料^{しりょう}を見^みながら人口^{じんこう}が増^ふえつつある言語^{げんご}を優先^{ゆうせん}して対応^{たいおう}していくことが、私^{わたし}たち大人^{おとな}の社会^{しゃかい}だけでなく、子ども^こたちの学校現場^{がっこうげんば}にも必要^{ひつよう}だと思^{おも}います。

その他^たご意見^{いけん}ありますでしょうか。

はぎわらいいん
【萩原委員】

先ほど池田委員のご意見をうかがっていて、年少人口・生産年齢人口・老年人口のパーセンテージと人数は分かるのですが、国籍ごとの内訳や分布が分かると、3年後・5年後どういう言語が必要になるのかといった予測できる材料になるかと思えます。今ベトナムの方は減ってきているという印象が私にはありますが、年少人口は親御さんに連れられて学校教育を受けるといったことが考えられます。そのあたりをご検討いただけたらと思います。色々な予測ができるようになるかと思えます。

じむきょく い で
【事務局・井出】

承知いたしました。次回までに、市民課と確認しながら対応できるようであればここに国籍の分布が入るような資料の作成を検討させていただきます。

あきたいいんちよう
【秋田委員長】

ありがとうございます。今お話にありましたように子どもたちや大人の社会は人口の推移が微妙に違ったりすることがあるのでそれをデータとして持っていれば、「子どもたちの多言語対応は何語を優先すればいいか」、「社会人・ご年配の方には何語を優先すればいいのか」ということが分かるかと思えます。そういった数字が出ればグラフ等で先を予測することができます。予測の上での対応を準備するののも一つの手かなと思います。

その他ご意見無いようですので以上で本日の議事を終了いたします。ご協力ありがとうございました。